

# 自社ウェブ活用と省力化が順調

11月8日、GMAC（ゴルフ市場活性化委員会）は、ゴルフ場、練習場、用品業界の現状と未来に向けた戦略を討論するセミナーを開催した。

同セミナーは、ゴルフ場

練習場、用品業界の3業界が共通認識を持ち、業界の一致団結の機運を盛り上げるもので、ゴルフ場からは福島範治氏（鹿沼グループ社長）、ゴルフ用品からは佐久間功氏（ゴルフ・ドウ社長）、ゴルフ練習場からは野原和憲氏（多田ハイグリーン社長）の3氏が登壇。

なかで、福島氏が語った鹿沼グループの取り組みを紹介する。

2022年の来場者数が25万7987名（108日）と、01年以来21年ぶりの水準に達した同グループ。その理由の1つに35歳以下のゴルフファアに向け、17年12月から募集を開始した会員制度の「U（アンダー）35」を挙げた。

「コロナ禍で非常に伸び、22年の段階で上限の1300人になり、若い方が非常に増えた。コロナ前に作った制度だが追い風に乘れた」（福島氏）

営業面では自社ウェブの強化を図った。「GDOや楽天GORAは、新規顧客呼び込む入口になっているので、同時に自社でもどう顧客にできるかがポイントになる」と、福島氏は話す。

自社ウェブに移行してもらう窓口のLINE会員は2万人を突破。現在、自社ウェブの予約比率は30%を超える。また、LINEのQRコードでセルフチェックインできるため、副次効果も現れた。「フロントに立つスタッフの人

数を減らしたり、余ったスタッフの声をかけたり、動き方を変えることができた」（福島氏）

省力化では、2台導入した無人機（自動芝刈機）も効果を発揮。従来は作業していなかった夜間を活用して7日ずつ刈るが、人件費削減以外のメリットもあった。

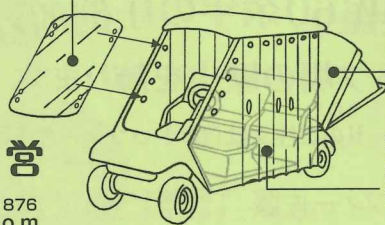
「無人機は人を減らすための機械と思いがちだが、やってみて分かったのは、今まで昼に稼働していた人員は違う作業に当たることができる。すると、今まで手がかけられてなかったバンカーのエッジ切りに回ろう」「ティーイングエリアに力を入れよう」と、クオリティを上げていく面でも効果があつた」（福島氏）

同グループは、コロナ禍で都内から地方への移動が制限されると、本社を鹿沼市に移転した。本社登記地も納税地もすべて栃木県に戻したことで、地方自治体との協力体制の強化に成功。「地方自治体や地域社会との共創」という活動に力を入れる。具体的には、「コロナで中止になった鹿沼市の花火大会をうちでやろう」と提案し、毎年ゴルフ場（鹿沼72カントリークラブ）で行っている。地域のゴルフをしない人も気軽に来てほしいという思いがあり、鹿沼CCにテラスを作ってビアガーデンを実施。栃木ヶ丘ゴルフ倶楽部でもディナーコースを作り、家族を連れてきて娘の誕生日会をやったり。ゴルフ場が地域の中で生かされていく仕掛け、地域のハブになれるような活動を行っている」（福島氏）

「新規層の取り込み」DX「地域社会との共生」。よく耳にするフレーズだが、真摯に向き合うゴルフ場は、やはり結果を残している。

水バケツ  
目土袋  
カゴカバー  
ベンチマット各種

ウインドシールド 各機種に対応



乗用カーの雨対策に  
エアルーフ（各種対応型）

- 各機種に対応出来、取付は簡単。
- クラブの出し入れは楽々、手が濡れません。
- 汚れが目立つ様になりましたら中性洗剤等で水洗いして下さい。

オーラコート®  
オーラコートII（簡易型）  
シースルフィールム（30枚入）  
（フロントの表面に貼って安全運転に）

■総発売元 株式会社秀営  
東京都中央区日本橋筋5丁目1-32-2  
Tel.03(3664)2381代 Fax.03(3661)1876  
E-mail: info@syu-ei.com